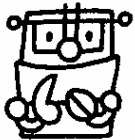


小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /  
植物の体とはたらき / 理解シート

## ジャガイモの育て方を、教えて



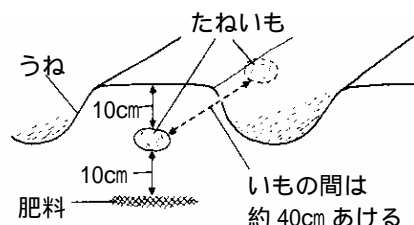
よくたがやした、日当たりがよい所にいもを植え、土のもり上げ方に気をつけるのが、こつなのさ。

### 丸ごといもを植えて、出てきた芽をえらぶ

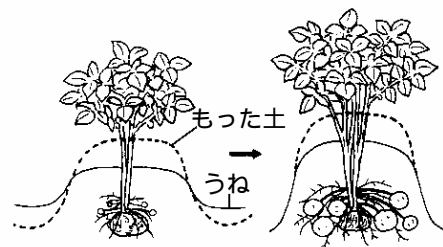
春になると、ジャガイモのくぼんだ所から芽がいくつも出てきます。ジャガイモのいもの栄養分は、芽が育つために用意されたものなのです。たがやしてやわらかくした土に、たねいも（芽を出させるためのいも）を、下図のように植えます。

ジャガイモは、15～20 でよく育つので、土地の気候に合わせて、植える時期を調節します。芽が出てきたら、大きい芽を2本ぐらい残して、残りの芽は根もとをおさえながら、引きぬきます。

芽が出て10日ほどしたら、うねの間の土をほって、その土を葉のつけ根の高さまでもり上げます。さらに10日ほど後で、もういちど、葉のつけ根まで土をもり上げます。こうすれば、たねいもの上にできてくる新しいいもは、土からはみ出ることもなく、暑さや病気から守られます。



<ジャガイモの植え方>



<もり土をする>

### 葉がしげるほど、できるいもも多い

葉が広がり、花がさくころになると、地面の下では、新しいいもがいくつも育っています。たねいもは、芽が育つのに栄養分を使われ、しわしわになっています。日がよく当たる所では、葉がよくしげり、葉でつくられるデンプンの量も多いので、いもも、たくさんできます。